

大関にあがると何故コケるのか

私は大相撲ファンである。

最近の取組を見ていると、直前の場所まではあれだけ強かった力士が大関の地位に就くと、勢いがなくなって、安心して見ていられないと感じられることが多い。

大関の地位は、最強の地位である横綱への登竜門であり、通過点にすぎないはずだ。

ところが、大関になったとたん、簡単に負けてしまうのである。

何故、関脇時代の勢いやがむしゃらさを失ってしまうのか。

ファンの目線では、稽古が足りないのではないかと邪推すらしてしまう。

アマチュアですらないファンの目から見ても、受け身の相撲と積極的でひたむきな相撲の差は、あまりに大きいからだ。

地位に甘んじた受け身の相撲では、横綱になることはおろか、目の前の一つ一つの取組に勝つことすら難しいだろう。

勢いは積極的でひたむきな相撲に表れるもので、そのような取組を私たちファンは期待している。

大関たちには、関脇時代に抱いたチャレンジ精神を持ち続けて相撲界の模範となって欲しい。そして、相撲道を貫き通して、いずれは後進を育ててもらいたいものだ。

さて、話題は変わるが、経営の指針に「創業は易し、守成は難し」というものがある。

創業するときは勢いもあるので易しく、むしろ、難しいのはそれを守り続けることであるという意味である。

一見すると創業する方が難しいと思うかもしれないが、実際は逆なのである。

実は、まさに今、多くの日本企業が成長期を過ぎて、いかに持続するかに腐心し、苦しんでいる。

経済成長期に一定の成功をおさめた企業は、相撲で言えば、まさに大関の地位にあるといっている。

さて、問題は今ある地位ではなく、これからどのような取組をするかである。

大関である企業たちが、創業時のチャレンジ精神を持ち続け、その地位にふさわしくありつづけられるかに、これからのニッポンの浮沈がかかっているといっても過言ではない。

地位や成功を手にしたとしても、勢いと新鮮さを保ち、過去の成功体験に頼らないことが、組織活性化の要諦であろう。一度は地位を手にしてもなお、つねにチャレンジ精神に満ち溢れ、成長し続けられる経営こそが、社会にとっても、後進の若い起業家たちにとっても、模範となる企業の姿である。

(所長 宇久田進治)

気を付けたい自動車保険契約

個人用に使っていた自動車を法人の名義に書き換えました。その自動車の自動車保険ですが、個人契約の方が保険料は安いので、そのままにしておきたいのですが、いいでしょうか？



納税者様



会計事務所

個人契約の自動車保険の方が安いので、契約を継続したいというお気持ちは良く分かります。

でも、万が一、その自動車で事故が起こって保険金を受け取る場合、保険金は個人が受け取ることになりますが、自動車の所有者である法人の利益として計上しなくてはなりません。補償内容の違いで保険金が支給されないこともありますので、法人の契約に変更することをお勧めします。

えっ！

そうなんですか？
保険料は個人で支払っていても、ですか？



保険料の支払い者にかかわらず、保険金の目的となっている自動車の所有者が保険金の支払いを受ける権利を有すると考えますので注意が必要なのです。

まとめ

被保険車両の所有者	保険料の契約者 (保険料の支払者)	保険金の受取人
法人	社長個人	社長個人

↓↓↓

**保険料は法人経費にしていなかったにも関わらず、
社長個人に支払われた保険金は、法人に帰属すべきという裁判**

出典: 平成 29 年 9 月 21 日裁判 国税不服審判所(F0-2-795)裁判要旨より

ちなみに、個人事業用の車両に対する保険金を個人が受け取っても所得税はかからないのですよね？
法人では法人税がかかるんですか？



はい。法人では「雑収入」として計上し、事故による修繕費や除却損を費用として全額計上します。その収入から支出を引いた金額があれば、その金額に法人税が課されることになります。個人事業用の自動車に係る保険金(※)については、滅失した資産に対する補填なので所得税はかかりません。その代わり、修繕費や除却損も受け取った保険金を超える部分しか経費に入れることはできませんのでご注意ください。(※死亡保険金は除きます)

(保険事業班)



人づくりの経営

～道経一体における「徳づくりの経営」より～



徳づくりの経営
(モロゾミ 健二)

企業を長期的に存続させるためには、「人づくり」の経営を目的とする必要があります。

多くは売上や利益を増加させ、規模を拡大させることが最も優先すべきことと考えます。もちろん営利企業である限り、利潤を追求することは当然であり、生活していく上で大切なことです。

しかし、道経一体(精神生活の法則である道徳と物質生活の法則である経済が一体であること。)の考えでは、利潤を追求することよりも優先すべきことは、「人づくり」の経営にあるとしています。

「企業は人なり」と言われるように、企業経営の中心にあるのは常に「人」であり、また、経営過程で様々な形に変容する資本とは違い、一貫して変わらないのものが、人間の中心に存在する「品性」という根源的な資本です。企業においては、経営者を中心とした社員すべての「品性」を集約した組織の「品性」こそが、企業の諸活動を決定的に左右する最も重要な資本であるといえます。

伊那食品工業(株)の例を挙げますが、伊那食品工業(株)の塚越会長は、長年会社の存続意義や会社の成長について考え、辿り着いたのが「会社とは、社員を幸せにするためにある。それを通じて、良い会社を作り、地域や社会に貢献することだ。」という答えでした。人件費はコストとしてみるのではなく、会社の目的そのものとして扱い、使うべきものを使い、払うべきものを払った後で利益が0になったとしても、払うべきものを払っているのが構わない、また、例えば利益が出たとしても、同じ税金を払うなら法人税を多く払うことよりも、従業員の給与を上げて、源泉所得税で納税するよう心掛けておりました。

その他にも、業績の評価なし、会議には資料なし、表彰なし、給与にはほとんど差をつけないなど一般的な会社では考えられないような、無い無い尽くしですが、それはいずれも「家族であつたらやるだろうか。」という考えが念頭にあり、「家族でやらないことはやらない。」という考えがあつたようです。会長や社長の社員に対する思いは、社員の品性を高め、結果的に良い会社を作ることにつながり、社会への貢献へと繋がったのだと思います。

経営資源の土台には必ず「人」がおります。この「人」をつくることのできなれば、短期的な利益を得られても、長期的には存続はできないでしょう。

(雨谷勇祐)



6 月カレンダー



10 日 源泉所得税・特徴住民税納付

15 日 令和4年分所得税の予定納税額の通知

※所得税の納期の特例や労働保険の納税が 7 月 11 日(月)までの予定です。

給与明細等の書類のご用意をお願いします。



毎週日曜日 18 時～18 時 29 分 FM83.1

日曜日の夕暮れ時は、

『ざいつきげんの音楽鍋』でよいひと時を♪



職員

篠原

の

ここが

オススメ!

季節の花に癒されよう

GWに日比谷花壇大船フラワーセンターに行ってきました。
大船駅から20分程の植物園で四季折々の花が一年中楽しめます。

まず5月が一番の見頃というシャクヤク園へ。
210種2,000株が栽培され、全国でも有数の規模という事です。
シャクヤクは色や形がバラエティ豊かで驚かされます。
赤やピンクの華やかな花が咲き乱れてとても見事でした。



次はバラ園へ、まだ咲き始めで蕾も多いのですが、ふわっとバラの香りに癒されます。
壁面のピンクやオレンジのツルバラがとても愛らしく素敵でした。



園内には珍しいハンカチノキも咲いていました。
花の周りの白い葉状部分が垂れ、木に引っかかった白いハンカチのように見えます。
白が新緑と青空に映え、爽やかに目を楽しませてくれました。



6月からはハナショウブが見頃の様です。
季節の花を楽しみに足を運んでみてはいかがでしょうか。

参考: 日比谷花壇大船フラワーセンター(鎌倉市岡本1018)

<https://www.fcofuna-kanagawa.jp/info/>

(篠原)

過度な「節税」は無理を生じ、好結果を生みません。

問はず
がたり



『形式』と『実質』、税務では実質を優先します。
実質の所有者は誰か、つまり名義より実質を重視します。同じ法律でも税務は違います(実質課税の原則)。1円たりとも過不足なく、税務・納税の基本です。
当然のことで当たり前です。
度が過ぎた節税は、脱税とも判断されかねません。そしてどこかにしわ寄せが生じ、「頭隠して尻隠さず」になりかねません。そして他の税目に影響が出てしまいます。
バランスの良い総合判断が必要です。

(所長)

所長・職員一同、みなさまからのご意見・ご感想をお待ちしております

発行・編集 宇久田進治税理士事務所/株経営センターグロウ

〒251-0042 神奈川県藤沢市辻堂新町 1-1-2 クロスポイント湘南 6F

TEL 0466(36)0627 / FAX 0466(33)4892

さわやか土曜塾
しばらくお休みいたします。

